



嶺原 (さきばる) ※方言名: サキバル

初日の出を見る絶好のポイントが海岸通りにある嶺原集落。元旦早朝には、この海岸通りで新年式が行われます。また、集落近くの海岸一帯は釣り場としても魅力的です。



奄美十景 (あやまる岬)

岬の形が、「綾でできた毬のように真ん丸」であることから名前がついたという。あやまる岬には神様が宿していると言われており、ニライ信仰と天孫降臨の融合した神山的な信仰が残る岬である。あやまるの山頂には神屋敷があったといわれ、展望台には拝所、岬の丘一帯はアママルグスクになっており、グスク跡が信仰の場に変わってきた。岬から眺める景色は奄美十景にもなっている。



アミゴ (ユタの儀式)

ソテツジャングル駐車場のコンクリート壁には何故か不思議に思われる階段がある。これはアミゴへの道がコンクリートで遮断されたため、ユタ神が禊をするのに登れなくなり、後で付け足された階段である。信仰のために配慮した工法がないと、自然と人の関わりを祈るシマの空間が維持できない。現在は草に覆われ行くことが困難である。



カミミチ

奄美のシマジマに伝わる神様は琉球の影響を受け海からの来訪神で、海の向こうのネリヤカナヤからやってくると言われる。神の通る道 (カミミチ) を遮ったり、不浄なことをして汚したりしてはいけないと言われる。琉球弧に共通して見られ、一般に海と山を神聖視していると考えられる。現在は草に覆われ行くことが困難である。



元旦の日の出場所

「初日の出を見る絶好の場所がある」という。あやまる岬の上から見る初日の出は定番であるが、集落の人たちは海岸に降りる「ハマジョグチ」(出入口) 付近から見る初日の出が懐かしい風景であるという。モクマオウに覆われているが、ここから眺める海と海岸線も美しい。



アヤマルのイジュンゴ

あやまる岬観光公園の芝スキー場北側にはイジュンゴがあり、コンクリート製の水タンクが草に覆われている。ここはかつて神様のアミゴとして、また水汲み場として水道が普及するまで嶺原集落の人々が利用していた。



上村藤枝・里國隆

奄美ではシマ一番の唄者と慕われ、語り継がれている唄者も多い。掛け合いの唄を得意とした上村 藤枝は昭和4 (1929) 年に笠利町嶺原で生まれた。放浪の唄者として知られる里 國隆は大正8 (1919) 年に生まれ、幼くして失明した。豎琴とサンシン (三味線) を弾き、腹の底から絞り出すような渋い声で名声を残した。



神様の拝所

嶺原集落の聞き書き調査から、あやまる岬一帯は神聖な場所として扱われていることがわかる。ノロ神様やユタ神様が禊や祀りをする神聖な場所であることも調査によって明らかになった。このような場所は奄美大島から消えつつあるが、後世に残し伝えたいものである。



アヤマル第2貝塚

アヤマル第2貝塚は、ソテツジャングルの砂丘に縄文時代から弥生時代における貝塚が確認されている。土器片や石器、貝輪などが出土し、発達したリーフから魚介類を採集し、砂丘後方に住居を構えていたと考えられる。砂丘内では昭和20年代頃まで塩焚きも行われていた。